



大学の費用を知る

大学受験や進学のコストについて頭を悩ませる保護者の方は、多いのではないのでしょうか。
そこで、教育費に詳しいファイナンシャル・プランナーの新美昌也さんに、
大学に関わる費用や、そのプランニングについて伺いました。



大学受験・進学費用のキホン

大学にまつわる費用や制度にはさまざまなものがあります。すぐにでも大学の費用について準備しなければ、とお考えかもしれませんが、まずは、押さえておきたい基本的な情報について、見ていきましょう。



監修
新美 昌也氏

T&Rコンサルティング有限会社代表。ファイナンシャル・プランナーとして、保護者向け進学マネー講座を開講している。



費用のプランニングのために
知っておきたい「3つの時期」

子どもが安心して進学するために、保護者による経済的サポートは欠かせません。例えば国立大学の授業料(標準額)は私立大学文系の平均額よりもやや低い程度ですから、国立大学でも相応の学費を準備する必要があります。進学費用が発生するタイミングは、大きく分けて次の3つです。

1つ目は受験期。受験料だけではなく、遠方の場合には交通費・宿泊費などもかかります。また、併願校が増えれば増えるほど、費用はかさみます。

2つ目は合格してから入学までの時期。合格後、期限内に初年度納付金を支払ったり、新生活の準備をしたりする費用がかかります。総合型選抜、学校推薦型選抜は、選考・合否発表が一般選抜よりも早く、入学金などの支払い時期も早いのが特徴です。

3つ目は入学後。毎年の学費など大学に払う費用のほか、下宿生の場合には仕送りが必要になります。

これら3つの時期の費用は、進学先や自宅か下宿かなどの状況によって大きく異なります。まずは子どもと進路についてよく話し合うことが大切です。

2020年度から始まる新制度など、
事前にしっかり調べて検討を

ぜひ知っておきたいのが、2020年度から始まる「高等教育の修学支援新制度」(いわゆる「高等教育無償化制度」)。学費を支払うのが困難な家庭を、「入学金・授業料の減免」と「給付型奨学金の支給の拡大」の2本立てで支援する制度です。支援対象は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生とされています。ただし、文部科学省公表の年収はあくまで「目安」です。給付される奨学金は原則返還する必要がないので、該当すると思ったら、ひとまず申し込んでみましょう。また、この制度は他の奨学金との併用も可能です。日本学生支援機構の第一種奨学金(利息なし)の場合は貸与月額が制限されますが、第二種奨学金(利息あり)は制限がありません。この制度だけではまかなえない場合は、その他の奨学金も検討するとよいでしょう。

奨学金と教育ローンの違いを知り、
上手に活用する

注意したいのが、奨学金の給付や入学金・授業料の減免が始まるのは入学後から、ということ。つまり、入学ま

ポイント② 高等教育の修学支援新制度(いわゆる高等教育無償化制度) 支援1と2はセットで受けられる

支援1: 入学金・授業料減免額*1
(住民税非課税世帯の学生の場合・上限・年額*2)

	国公立大学		私立大学	
	入学金	授業料	入学金	授業料
大学(昼間制)	約28万円	約54万円	約26万円	約70万円

*1文部科学省ウェブサイトより、一部抜粋して掲載。
*2住民税非課税世帯に準ずる世帯の学生は、住民税非課税世帯の学生の2/3または1/3の支援額となります。

支援2: 給付型奨学金の給付額*1
(住民税非課税世帯の学生の場合・月額)

	国公立大学		私立大学	
	自宅生	自宅外	自宅生	自宅外
大学 短期大学 専門学校 (昼間制・夜間制)	29,200円 (33,300円*2)	66,700円	38,300円 (42,500円*2)	75,800円

*1日本学生支援機構「給付奨学金案内」より一部抜粋して掲載。
*2生活保護世帯で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人は、カッコ内の金額となります。

ポイント③ 奨学金と教育ローン

	奨学金	教育ローン
借主	学生本人	保護者
利息	在学中は無利息	借りた翌日から発生
返済	貸与終了月の翌月から数えて7か月目の月	借りた翌月から開始
支給	入学後に毎月定額	一括振込 (学校に振り込まれる場合も)

での費用は各家庭での準備が必要です。特に初年度納付金は、併願校の納入期限が第一志望校の合格発表よりも前の場合、その併願校の初年度納付金を支払う必要があります。この段階で資金不足になりそうであれば、「教育ローン」などを検討することになります。教育ローンは、保護者が借り主となるなど、奨学金とは性質が異なります。その違いをよく理解して、上手にやりくりしましょう。なお、国の教育ローンが不採用になった場合、自治体による入学金貸付制度や、ろうきんによる入学時必要資金融資制度なども検討するとよいでしょう(152ページ参照)。

ポイント① 大学受験・進学に必要なお金 私立医・歯学、薬学系統はさらにお金がかかる傾向に

	国公立大学		私立大学文系		私立大学理系		
	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生	
受験期(p.144~参照)	203,600円	231,400円	256,500円	263,300円	247,400円	288,900円	
合格~入学まで(p.146~参照)	1,829,800円	2,350,500円	1,986,100円	2,500,300円	2,182,100円	2,730,100円	
入学~卒業まで(p.148~参照)	学費(4年間)	1,878,800円	1,877,400円	3,317,175円	3,312,075円	4,553,262円	4,563,562円
	生活費(4年間)	3,171,840円	6,196,320円	3,171,840円	6,196,320円	3,171,840円	6,196,320円
	生活費以外(4年間)	1,652,800円	1,685,600円	1,652,800円	1,685,600円	1,652,800円	1,685,600円
合計	8,736,840円	12,341,220円	10,384,415円	13,957,595円	11,807,402円	15,464,482円	

※進研アド2019年度調べ
※「入学しなかった大学の納付金」「合格発表や入学手続き」の費用を含みます。
※学費につき、初年度は生協のデータ、次年度以降は文部科学省のデータを基に監修者が独自に試算したもので、p.146・p.148の金額とは必ずしも一致しません。



費用のプランニング

基本的な情報を押さえた後、具体的なプランを立てる必要があります。
高3から大学入学までの流れとプランニングの手順を示します。
子どもの進学プランに合わせて書き込んでみましょう。

プランニングの手順

必要と見込まれる金額、用意が可能な金額を書き込んでみましょう。

1 3つの時期にかかる費用を知る (p.144-149) かかる費用を左右する主な要素は、①国公立大学か、私立大学か②何を学ぶか③居住形態、です。早めに子どもの希望進路を把握しておきましょう。	受験期に必要な金額 (p.144)	大学入学までに必要な金額 (p.146)	大学卒業までに必要な金額 (p.148)
	約	約	約
	円	円	円

2 家庭で用意できる教育資金を把握する 特に初年度は大きな金額が必要です。生活防衛資金を確保しつつ、大まかでもよいので、いくら用意できるかを計算しましょう。	受験～入学までに必要な費用のうち、用意が可能な金額(見込み)	入学後～卒業までに必要な費用のうち、用意が可能な金額(見込み)
	約	約
	円	円

3 奨学金や教育ローンを検討する (p.150-153) 特に注意したいのは、奨学金は入学後に支給されること。入学までに必要なお金が足りない場合には使えないので、教育ローンなどの検討を。	受験～入学までに必要な費用のうち、不足する金額(見込み)	入学後～卒業までに必要な費用のうち、不足する金額(見込み)
	約	約
	円	円

大学受験・進学のスケジュールと費用準備

左段の一般的なスケジュール例を参考に、費用準備に向けてやるべきことを書き込んでみましょう。

高校3年生		
4・5月	■教育資金の確認・検討 ■奨学金予約採用の申し込み(第1回)	[例]奨学金(予約採用)申し込み
6月		
7月		[例]賞与
8月		
9月	■教育ローンの申し込み ※資金が必要になる3か月前が目安 ■総合型選抜出願 ■大学入学共通テスト受験案内配付(例年)	[例]教育ローン申し込み
10月	■一般選抜・学校推薦型選抜願書取り寄せ ■奨学金「採用候補者決定通知」の交付 ■奨学金予約採用の申し込み(第2回) ※高校により異なる	
11月	■国公立・私立大学学校推薦型選抜出願 ■総合型選抜合格発表開始～入学手続き ※一般選抜よりも入学手続きが早い	
12月	■学校推薦型選抜合格発表開始～入学手続き ※一般選抜よりも入学手続きが早い ■私立大学一般選抜出願	[例]賞与・教育ローン借入れ
1月	■大学入学共通テスト ■国公立大学個別学力検査出願	
2月	■私立大学一般選抜・合格発表～入学手続き ■国公立大学前期試験・合格発表～入学手続き	[例]学資保険満期受け取り
3月	■公立大学中期試験・合格発表～入学手続き ■国公立大学後期試験・合格発表～入学手続き ■新生活への準備	[例]定期預金満期受け取り
大学1年生		
4月	■大学入学 ■奨学金「進学届」の提出	
5月	■奨学金支給開始 ※進学届提出時期により異なります。	

費用のプランニングは、子どもとよく話し合うことが大切

先述のように、進路によって費用は大きく変わるので、費用のプランニングを始める前に、進路について子どもと話し合っておきましょう。そして、その進路で3つの時期に費用がそれぞれどれくらい必要かを調べていきます。複数の進路の可能性がある場合は、最も大きな費用が必要と考えられる進路を想定して、調べておくといいでしょ。次に、家庭で用意できる金額も把握しておく必要があります。預貯金や見込みの収入などから生活費などを差し引きます。このとき、最低でも半年分程度の「生活防衛資金」を残すようにしてください。万一、保護者が病気になるったり失業したりしたときに必要な資金です。

資金に不安がある場合は、奨学金や教育ローンを検討します。教育ローンの借主は保護者なので、返済方法などは保護者の収入などから考えます。一方、奨学金の借主は子どもですから、奨学金の情報や認識を子どもと共有しておくべきです。また、将来就きたい職業の初任給や昇級モデルを調べておく、返還の見通しを立てやすくなります。

※2021年度大学入学共通テストに関する情報は、2020年2月の情報に基づいて掲載しています。※上記スケジュールは高校・大学などによって異なる場合があります。

受験期

必要な費用のトップバッターは、受験期にかかるお金。
受験料はもちろん、出願や受験時の交通費・宿泊費など、こまごまとした支出があります。
受験機会が多くなるほど費用負担も増すので、受験プランをしっかり立てましょう。



子どもと率直に話し合い、無理のない受験プランを

受験料や大学入学共通テスト(旧センター試験)の検定料は、およそ右ページの表のような金額を要します。一般的な例として、国立大学を1回、私立大学を3回受験すると、12万5000〜14万円ほどです。医・歯学部の場合は、この1.5倍程度を見込んでおくとい良いでしょう。

遠方の大学を受験する場合は交通費や宿泊費、食費なども軽視できません。受験シーズンは宿泊費が高騰しがちなので、地方入試(学外試験)の有無、実施会場を必ず確認しましょう。

受験校が増えるほど、費用の負担も

国立大学1校 + 私立大学3校受験の場合

受験料・検定料

約14万円

交通費・宿泊費など

約7~11万円

※2021年度大学入学共通テストの検定料は、旧センター試験と同額との情報に基づいて掲載しています。

もっと詳しく

受験パターンや自宅・下宿などの条件によって大きく変わる

■ 検定料・受験料の目安 受験料の割引・減免制度を利用すれば、費用の軽減も可能。

センター試験(3教科以上受験)	1万8000円*1
センター試験(2教科以下受験)	1万2000円*1
国公立大学個別(2次)試験	1万7000円*2
私立大学(医・歯学部を除く一般入試)	3万~3万5000円
私立大学(医・歯学部一般入試)	4万~6万円
私立大学(センター試験利用入試)	1万~3万円
私立大学(医・歯学部を除く推薦入試・AO入試)	3万~3万5000円

*1 大学入試センター「令和2年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項」
*2 文部科学省「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」
それ以外は進研アド2019年度調べ

■ 受験までの費用(全国平均)

受験のための費用	国公立大学		私立大学	
	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生
交通費	1万900円	4万2100円	1万1400円	3万6000円
宿泊費	3万1000円	3万7000円	3万600円	4万3000円
滞在費・その他	2万3900円	2万8700円	2万5000円	3万4700円
小計	6万5800円	10万7800円	6万7000円	11万3700円

※大学生協(全国大学生協連)2019年調べ

遠隔地の大学を受験する場合には交通費や宿泊・滞在費も考慮が必要。

増えてしまうので、受験費用を抑えるには受験校の絞り込みが必要です。出願するつもりで大学・学部を子どもに聞いたうえで、納得して通える大学か、入試の日程に無理がないかなどを確認しましょう。入試の日程については、初年度納付金の納入期限にも留意してください。日程によっては、入学するかどうか分からない段階で併願校に納付金を支払うケースもあり、実際、入学しなかった大学に納付金を支払った人も少なくありません。

割引・減免制度やクレジットカード決済で、受験料負担を軽くする

受験料の負担を軽減するしくみとして、多くの私立大学は、複数回受験す

る場合に受験料の割引・減免制度を設けています。条件は大学ごとに異なりますが、同じ大学で同じ学部を複数回受験する場合は、志望学部が複数ある場合などは、確認してみてください。オープンキャンパス参加者の受験料を減額するなどの例もあります。

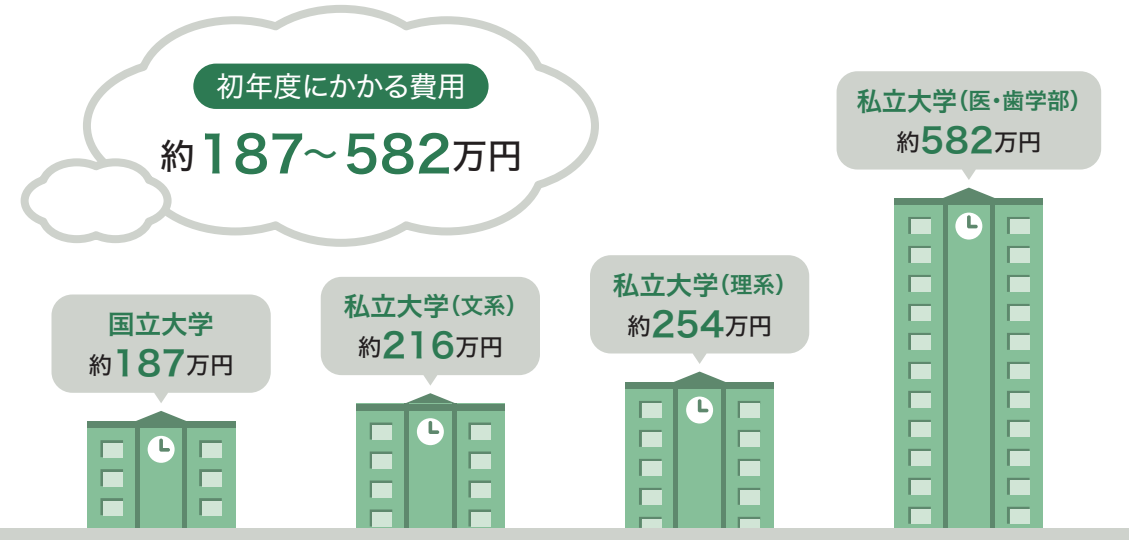
また、インターネット出願をすると、願書代を節約できます。国公立大学や大学入学共通テスト(旧センター試験)の願書は無料ですが、郵送で請求すると送料や手数料がかかりますし、私立大学では1通1000円程度必要な大学もあります。インターネット出願では、受験料のクレジットカード決済ができる大学も多くあります。ポイントがたまる分、お得です。

そのほか、合格したけれど入学するかわからない段階で併願校に支払う費用が発生する場合もあるので、その金額も考慮が必要(全国平均で30万円程度*)。*大学生協(全国大学生協連)2019年調べ

※p.140のポイント①の図表には、この金額を含んでいます。p.146には、この金額を含んでいません。

合格～入学まで

晴れて合格したら、入学する大学に支払うお金のほか、新生活のためのお金などが必要になります。初年度は入学後に比べても大きな金額になることが多いので、早めにお金のやりくりを考えておいたほうがよいでしょう。



※「初年度納付金の目安」+「入学時の費用」の下宿生の場合。進研アド2019年度調べ

併願校の納入期限に注意した受験スケジュールを

晴れて合格通知を受け取ることができたら、入学の意思がある大学に「初年度納付金」を納めることとなります。初年度納付金とは、入学金や授業料、そして私立大学の場合は施設・設備費も加えた、1年次に必要な費用のこと。多くの場合、入学時に最低限必要な納付金は、「入学金+前期分の授業料+施設・設備費」です。納入方法は大学により異なるので、事前に受験する大学の納入方法を確認しておく必要があります。また、納入期限は、合格発表後の1〜2週間以内に設定されていることが多いようです。合格発表の時期

もっと詳しく

私立大学は学部によって大きく変わる。さらに、新生活準備の費用もプラス

■初年度納付金の目安(2018年度)

	国立大学	私立大学(文系)	私立大学(理系)	私立大学(医・歯学部)
入学金	28万2000円	22万9997円	25万4309円	107万3083円
授業料(年額)	53万5800円	78万5581円	110万5616円	286万7802円
施設・設備費(年額)	—	15万1344円	18万5038円	88万1509円
合計	81万7800円	116万6922円	154万4962円	482万2395円

※文部科学省「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」「平成30年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)の調査結果について」を基に作成

入学金は国立大学も私立大学(文/理)もほぼ同額。▶ 巻末の「2020年度 大学・短期大学 初年度納付金一覧」に全ての大学の情報が掲載されています。

■入学時の費用(全国平均)

	国公立大学		私立大学	
	自宅生	下宿生	自宅生	下宿生
入学式出席のための費用	4900円	4万2300円	4400円	4万2100円
教科書・教材・パソコン等購入費用	19万9100円	22万6500円	14万9900円	18万5700円
住まい探しの費用	—	18万3600円	—	22万1100円
生活用品購入費用	8万9500円	30万7000円	8万1400円	29万8900円
その他の費用*	10万3500円	28万9900円	8万3500円	24万8800円
合計	39万7000円	104万9300円	31万9200円	99万6600円

*その他の費用は、引っ越し代・荷物の送料、4月分の生活費、予備の貯金、保険料、生協出資金、お礼・お祝い返しほか。大学生協(全国大学生協連)2019年調べ

下宿生は、住まいと生活用品を中心に、自宅生よりも多くの費用が必要。

！ 初年度納付金は、一括納入のほか、2段階方式、延納方式、さらに、指定日までに入学辞退手続きをすると、入学金以外が返金される返還方式がある。

そのものが早い総合型選抜や学校推薦型選抜では、納入期限も早くなるので、注意しましょう。気をつけたいのは、併願校の納入金と納入期限です。併願校の納入期限が第1志望校の合格発表日より後にくる受験スケジュールであれば、第1志望校の合格を待って、併願校に納付するかどうかを決められます。可能な限り、余分な出費を抑えられる受験スケジュールを組むとよいでしょう。

下宿生の入学準備はおよそ100万円かかる

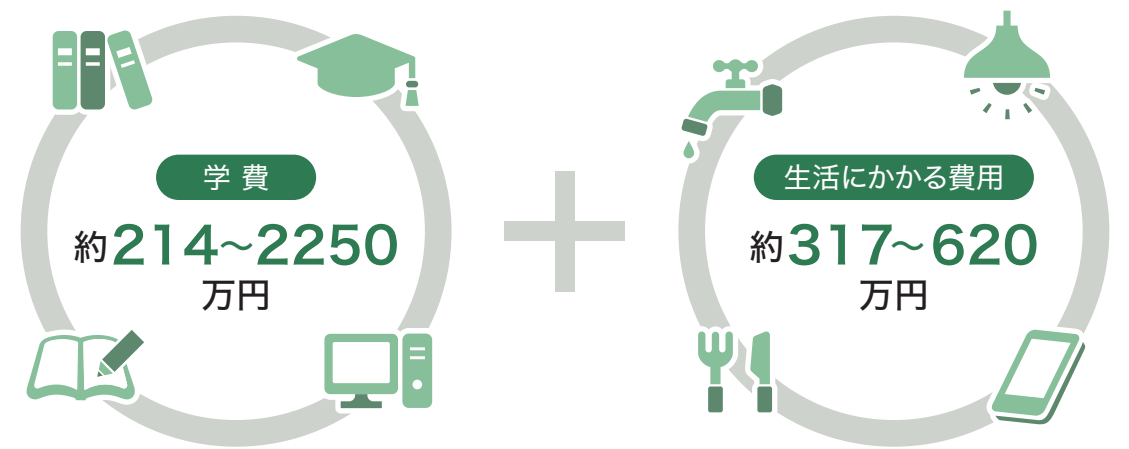
入学先が決まった後は新生活に向けた準備が始まります。特に下宿生にとって負担が大きなのが、住まいの賃

貸契約に要する費用です。マンションやアパートを借りるには、敷金・礼金のほか、仲介手数料などが必要です。また、家賃の相場や学校までの交通費、治安などは地域により異なります。合格後は新生活の準備で慌ただしいため、賃貸業者のホームページなどで費用の目安や周辺環境などを事前に調べておきましょう。学生寮などへの入寮を希望する場合は、早めに申し込みが必要です。

住まいのほか、教材やパソコン、家具や家電など生活用品や、引っ越しのための費用など準備すべきものを事前にリストアップしておきましょう。遠方の大学の入学式に保護者が出席する場合は、その交通費も必要です。

卒業まで

入学後、卒業までの4年間(または6年間)、授業料などの学費を大学に納付します。
また、生活費や、それ以外に必要な費用も欠かせません。
継続して必要な費用として、しっかり見積もっておきましょう。



※学費、生活にかかる費用は、初年度分(入学金以外)を含みます。

もっと詳しく

学費と生活費のほか、留学費用や就職活動費用なども無視できない

■卒業までにかかる学費 ※初年度分(入学金以外)を含む

	国立大学*1	私立大学*2(文系)	私立大学*2(理系)	私立大学*2(医・歯学部)
授業料(年額)	53万5800円	78万5581円	110万5616円	286万7802円
施設・設備費*3(年額)	—	15万1344円	18万5038円	88万1509円
年間合計	53万5800円	93万6925円	129万6654円	374万9311円
在学年数	×4年			×6年
合計	214万3200円	374万7700円	516万2616円	2249万5866円

卒業までに必要な学費は、学部によって約10倍の差になることも。

*1 文部科学省「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」
*2 文部科学省「平成30年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)の調査結果について」。
私立大学層間部の平均額。
*3 私立大学は授業料、施設・設備費のほか、実習費、諸経費なども徴収される場合がある。
※ここでは単純に4倍または6倍としているが、大学・学部によっては学年が上がるにつれて授業料、施設・設備費などが上がる場合もある。

■大学生の1か月の生活費(全国平均)

	内 訳	自宅生	下宿生
収入	小遣い・仕送り	1万3480円	7万2810円
	奨学金	1万620円	2万900円
	アルバイト	4万1230円	3万3600円
	定職	300円	370円
	その他	1840円	2180円
	収入合計	6万7480円	12万9860円
支出	食費	1万3850円	2万6390円
	住居費	150円	5万3930円
	交通費	8160円	4070円
	教養娯楽費	1万2990円	1万2870円
	書籍費	1620円	1860円
	勉学費	1270円	1900円
	日常費	6160円	7620円
	電話代	1780円	3550円
	その他	3220円	3430円
	貯金・繰越	1万6880円	1万3470円
	支出合計	6万6080円	12万9090円

※各項目および合計はそれぞれの平均値のため、内訳の合計が収入・支出の合計と一致しない場合があります。大学生協(全国大学生協連)2019年調べ

毎月の住居費が下宿生の大きな出費となっている。

下宿生の毎月の生活費は自宅生の2倍ほど必要。

■生活費以外にかかった費用の一例(2019年4~9月の有額平均値)

	内 訳	自宅生	下宿生
合宿代	4万6900円	4万7100円	4万7100円
国内旅行	5万5100円	5万8000円	5万8000円
海外旅行	14万8200円	13万8200円	13万8200円
帰省代	2万2600円	2万7100円	2万7100円
留学	34万3900円	31万8700円	31万8700円
運転免許	25万2800円	25万2900円	25万2900円
各種スクール	13万1100円	13万4600円	13万4600円
耐久消費財	8万2300円	8万6500円	8万6500円
衣料品	3万3000円	3万1300円	3万1300円
引っ越し	5万4000円	8万4000円	8万4000円
就職活動	4万1000円	4万8300円	4万8300円
その他	7万9200円	6万5800円	6万5800円
半年間の合計の平均		20万6600円	21万700円

※各項目および半年間の合計の平均額はそれぞれの有額平均値のため一致しません。大学生協(全国大学生協連)2019年調べ

多くの大学生が希望する運転免許の取得。費用は誰が負担するのか事前の確認が大切。

成績上位者などが対象のスカラシップ制度

成績上位者や経済的困難を抱える学生を対象に、大学が授業料の減免や奨学金の給付・貸与を行う制度。例えば森ノ宮医療大学では、一般選抜前期の保健医療学部合格者の上位15名程度に、初年次の学納金(入学金除く)155万円を免除しています。

学生寮や民間の学生会館の利用も検討を

大学の学生寮は、キャンパスに近く、安価で安全です。異なる学年や学部の学生との交流もできるなど、多くのメリットもあります。また、民間が運営する学生会館などもあり、バランスの取れた食事を提供してくれるなどの特徴があります*。

*学生会館により異なります。

「学費」授業料以外の諸経費にも要注意

学費は、進学先によって大きく異なります。国立大学の授業料は年間53万5800円を標準として、この20%増の64万2960円が上限と定められています。公立大学の学費は国立大学に準じていますが、大学の所在地の住民は、入学金が低額となるケースがほとんどです。一方、私立大学の学費は、大学間はもちろん、学部間でも大きな差があります。一般的に文系学部よりも理系学部や芸術系学部のほうが高額です。特に、医、歯、薬学部の学費は文系学部に比べ非常に高額で、在学年数も長いので、総額では大きな差になります。

「生活費」誰がどこまで負担するのか子どもと話し合う

下宿生の生活費は自宅生の約2倍必要です(右ページ表参照)。特に差が大きいのは、主に食費、住居費です。下宿生活は費用がかさみますが、子どもにお金の使い方をアドバイスするよい機会とも言えます。無理なくバランスよく暮らせる節約方法など、家計管理能力を身に付けさせましょう。

そのほか、学生生活にはさまざまな出費が発生します。運転免許の取得費用や旅行費、就職活動費などです。また、最近では卒業の要件に留学を課す大学もあり、その費用も必要です。保護者がどこまでサポートするのか、子どもと話し合っておくことが大切です。

保護者のサポートのほか、アルバイトも学生の収入源の一つです。アルバイトは自宅生、下宿生どちらにとっても、社会経験を積むよい機会です。大学によっては、授業のサポートを行うSA(チューターアシスタント)や図書館事務など、学内でアルバイトを募集しています。学業がおろそかにならない範囲で、ぜひ経験させておきたいものです。

奨学金

入学してから後の学費が足りない、あるいは不安がある場合、奨学金の利用を検討しましょう。
日本学生支援機構のほか、多くの団体や機関が奨学金制度を設けています。
どんな種類があるのか、調べておきましょう。

奨学金(実施主体)の種類

日本学生支援機構	地方公共団体	各学校	奨学金事業団体
日本でもっとも多くの人に利用されている、国が実施する奨学金制度。	都道府県や市区町村が実施するもの。地域に居住していることなどが条件となることが多い。 1137 団体	大学独自のため、条件などはさまざま。給付型が多い。複数の制度がある場合も。 2618 団体	企業や個人によって運営されている奨学金。大学窓口の場合と直接申し込みがある。 1273 団体

※実施団体数は日本学生支援機構「平成28年度 奨学金に関する実態調査結果」より。

日本学生支援機構奨学金の種類と月額

大きく分けて貸与型と給付型があります。給付型は「高等教育の修学支援新制度」(いわゆる「高等教育無償化制度」)の奨学金のことです。

[奨学金の種類と利息]

貸与型	第一種奨学金	無利息
	第二種奨学金	在学中は無利息。利率は3%を超えない。(参考:2019年3月貸与終了者の場合、利率固定方式で0.14%、利率見直し方式で0.01%)
給付型*		原則返還義務なし

※「第一種奨学金」と「第二種奨学金」の併用貸与、給付型奨学金と貸与型奨学金の併用も可能です(家計基準あり)。
※給付奨学金と第一種奨学金を併せて利用する場合、第一種奨学金の貸与月額が制限されます。
*国等により、給付奨学金の対象となることの確認を受けた学校が対象です。

[学力基準] (予約採用の場合)

貸与型	第一種奨学金*	申し込み時までの高校の評定平均値が5段階評価で平均3.5以上
	第二種奨学金	申し込み時までの高校の評定平均値が学校の平均水準以上であることなど
給付型		以下のいずれかに該当すること 1.高校における全履修科目の評定平均値が5段階評価で平均3.5以上 2.1に該当しない場合、将来、社会で自立し、活躍する目標をもって、進学しようとする大学等における学修意欲を持っていること

*住民税非課税世帯(課税証明書の所得割額の欄が0円)、生活保護受給世帯または社会的養護を必要とする生徒は、学校からの推薦があれば第一種奨学金の学力基準を満たすものとされます。

[家計基準] (予約採用の場合)

貸与型	第一種奨学金	前年1年間の家計収入が747万円以下(4人世帯の場合)
	第二種奨学金	前年1年間の家計収入が1100万円以下(4人世帯の場合)
給付型*		第一区分 年収約270万円以下
		第二区分 年収約300万円以下
		第三区分 年収約380万円以下

*家族4人世帯(子ども二人のうち、本人が18歳、もうひとりが中学生)の場合の目安となる年収です。本人の年齢や、家族構成等によって目安年収は異なります。各種所得控除の合計額により、目安の金額を上回っても対象となったり、下回っても対象とならない場合があります。また、収入だけでなく、資産基準も満たす必要があります。支援の対象となるかなどは、日本学生支援機構のWEBサイトで調べることができます(p.153「日本学生支援機構」進学資金シミュレーターを参照)。

[月額]

種類	大学の種類	自宅通学者	自宅外通学者	
貸与型	第一種奨学金*1	国公立大学	2・3万円 45,000円(最高月額) から選べる	2・3・4万円 51,000円(最高月額) から選べる
		私立大学	2・3・4万円 54,000円(最高月額) から選べる	2・3・4・5万円 64,000円(最高月額) から選べる
	第二種奨学金	2万~12万円の範囲で1万円刻みで選べる。私立大学の医・歯・薬・獣医学課程については12万円を選んだ場合のみ、医・歯学課程は4万円、薬・獣医学課程は2万円を増額できる		
給付型*2	第一区分	国公立大学	29,200円(33,000円)	66,700円
	第二区分	私立大学	38,300円(42,500円)	75,800円
	第三区分	第一区分の1/3の金額		

*1 貸与月額を選択できます。ただし第一種奨学金の最高月額を選べるのは、第一種、第二種併用貸与の家計基準を満たした場合のみです。
*2 生活保護世帯で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人は、カッコ内の金額となります。また、進学してからは、毎年秋に区分が見直されます(全区分の対象外となる場合もあります)。

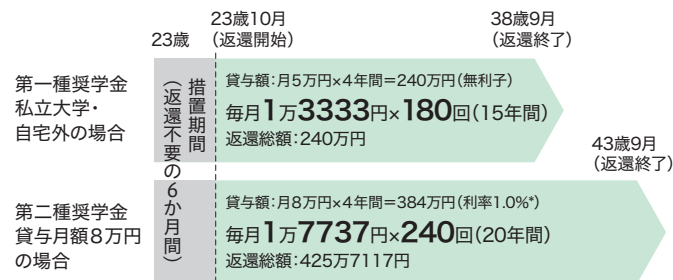
[申込方法]

貸与型・給付型	予約採用	高校から必要書類を受け取り、提出期限を確認する。必要書類を高校に提出し、インターネットで手続きをする
	在学採用	進学後は毎年4月に募集を行うので、在籍する学校に申込締切日を確認し、学校を通じて申し込み
貸与型	緊急採用・応急採用	家計の急変で奨学金を緊急に必要とする場合、在籍する学校を通じていつでも申し込める

[スケジュール例] (予約採用の場合)

申し込み	高校3年生の4月下旬~6月下旬に、在学する高校で申し込む。詳しい時期については、在学する高校に確認する
奨学金振込	初回振込は4~6月のいずれか。毎月、本人名義の口座に振り込まれる
継続手続き	毎年12~2月ごろ(大学によって異なる)

奨学金返還スケジュール例



*利率固定方式の場合、適用利率は貸与終了時に決まる。過去10年(3月)は、0.14~1.52%で推移している。※日本学生支援機構ホームページの「奨学金貸与・返還シミュレーション」を基に作成。

学生生活の大きな支えになるのが奨学金。一般的には、返還義務のある「貸与型」と返還義務のない「給付型」の2種類があり、いずれも採用条件があります。特に給付型は条件が限定的なので、まずは給付型を検討し、条件が合わなければ貸与型を検討しましょう。奨学金の中で最も利用されているのが「日本学生支援機構の奨学金制度です。貸与型には「第一種奨学金」(無利息)と「第二種奨学金」(貸与終了後に利息が発生)があり、後者の利息は、利率固定方式と利率見直し方式の2タイプがあります(最大利率は3%)。また、

給付型→貸与型の順に利用可能な奨学金を調べる

給付型の奨学金として、「高等教育の修学支援新制度」の奨学金もあります。そのほか、地方自治体の奨学金や「あしなが育英会」の給付金制度、「地方創生枠」などの制度もありますので、幅広く調べましょう。

「借りるかもしれないなら予約採用を申し込んでおく」

奨学金の申し込み方法は、高校在学中に申し込む「予約採用」と大学入学後に申し込む「在学採用」があります。予約採用の場合、入学後に進学届けを提出すれば、1~3か月後から貸与が始まります。申し込み時期は高校により異なりますが、入学前年の春頃と早いので、事前に確認しておきましょう。

予約採用は入学前に採否がわかります。また、予約採用・在学採用いずれも、不要になれば辞退できます。奨学金が必要になる可能性があるなら、申し込んでおくことをおすすめします。

なお、奨学金は特別な事情がない限り、4年間分(医・歯・薬学部は6年間)しか支給されません。仮に退学して他の大学に入り直す場合は、改めて奨学金を申し込む必要があります。留年した場合は、奨学金が廃止されることがありますので、普段の学業にはしっかりと励まなければいけません。また、支給額以上に使ってしまった場合は生活や返還が立ち行かなくなりますが、完全に子ども任せにせず、ある程度関わっていくとよいかもしれません。

教育ローン

初年度納付金など、奨学金を使うことができないお金のやりくり役に役立つのが教育ローンです。国の教育ローンのほか、多くの金融機関が設けており、条件や金利などもそれぞれ異なるので、家庭の状況に合わせて選ぶ必要があります。

教育ローン以外で入学前に借りられる制度の利用も

「国の教育ローン」が不採用になってしまった場合などに、日本学生支援機構の「入学時特別増額貸与奨学金」という一時金を申し込みます。この奨学金も入学後に支給されますが、対象者は、ろうきんの「入学時必要資金融資制度」を利用して、入学資金をつなぎで借りることができます。



費用検討の際に役立つWEBサイト集

- マナビジョン保護者版** 大学の費用や対策法がわかる!
manavision.jp/p/
- 日本学生支援機構** 奨学金のことなら
 奨学金の給付や貸与を受けることができるか知りたいときは「**進学資金シミュレーター**」
<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>
 毎月の返還額のシミュレーションをしたいときは「**奨学金貸与・返還シミュレーション**」
<https://simulation.sas.jasso.go.jp/simulation/>
- 全国大学生生活協同組合連合会** 大学入学に必要なお金の試算ができる!
親子で要チェック! 大学生生活ハウマッチ
<https://www.univcoop.or.jp/parents/howmuch/index.html>
- 日本政策金融公庫の教育ローン** 教育ローンを申し込みたいときは
<https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

実録! 費用の「ヒヤット」体験談

※大学生協 (全国大学生協連) 2019年度調べ

推薦を受けるとは思っていなかったので、推薦合格して学費の支払い時期が早まり、計画通りにいきませんでした。推薦で受験することもしっかり考えて、お金の計画を立てておくといいと思います。



(国立・理工系・女子・下宿・推薦)



国立との併願だったので、3月末まで動きがとれませんでした。新生活用品は吟味する時間もなく、慌てて近場で購入したので、時間に余裕があれば金額を抑えられたかと思います。

(私立・文化系・女子・下宿・一般)

入学金と授業料以外にもPCの購入、生協出資金、保険料、体育会への加入金、定期券の購入、電子辞書など、万単位でどんどんお金が出ていきます。現金の準備が必要だと痛感しました。



(国立・文化系・男子・自宅・一般)

主な教育ローンの種類

名称	借り入れ条件	融資額	金利*
日本政策金融公庫の国の教育ローン(教育一般貸付)	保護者の扶養する子どもの人数により、条件が異なる。子ども1人の家庭の場合、年収790万円以下(事業所得者は590万円以下) ※一定の要件を満たした場合、990万円(770万円)	学生・生徒1人につき350万円以内 ※海外留学資金の場合は450万円以内	固定金利1.66%(保証料別) ※母子または父子家庭および世帯年収200万円以下、または子ども3人以上かつ世帯年収500万円以下は年1.26%
ろうきんの教育ローン(証書貸付型)	中央労働金庫に出資のある団体の構成員や生協の組合員とそれ以外の一般の勤労者の方	最高2000万円	年2.20~3.90%(保証料は中央労働金庫が負担)
JAバンクの教育ローン	JA組合員で借り入れ時の年齢が20歳以上、完済時の年齢が71歳未満で、前年度の年収が200万円以上であることなど	10万~1000万円	各金融機関にお問い合わせください
金融機関の教育ローン	借り入れ時に20歳以上、完済時に71歳未満、年収200万円以上であることなど、金融機関により異なる	10万~500万円が一般的	

*金利は情勢によって変動します。進研アド2019年度調べ

教育ローンや教育支援資金は保護者が融資対象

奨学金などでまかなえないお金をやりくりするのに役立つのが、教育ローンです。保護者を融資対象として、さまざまな金融機関が教育ローンを設けています。中でも利用者が多いのは、日本政策金融公庫による「国の教育ローン」で、ほかの金融機関の教育ローンより金利が低いのが特徴です。

そのほか、銀行や信用金庫、生命保険会社などが多様な教育ローンを設定しています。利用条件や融資限度額、金利、優遇措置などはそれぞれ異なるので、利用を検討する際は、各金融機関の条件等をしっかり確認しましょう。

最近では一部の大学や自治体において、教育ローンの利息を全額、または一部補給する制度を設けているところもあります。進学予定の大学や、住んでいる自治体に、補給制度の有無を確認するのもよいでしょう。

また、保護者の失業など、家庭の事情で国の教育ローンの利用が難しい場合は、厚生労働省が管轄する社会福祉協議会の「教育支援資金」があるので、最寄りの社会福祉協議会に相談してみましょう。